

事務事業名		バイオマス関連整備事業		所属部	産業振興部	所属課	農林振興課
総合計画体系	政策名	〈V〉挑戦し活力を産みだすまち〈産業〉		所属G	森林バイオマスグループ	課長名	杉原律雄
	施策名	〈37〉林業の振興		担当者名	加藤信也	電話番号	0854-40-1051
	目的	対 市内の森林	意 適正に森林を整備、保全し、森林資源を活用する。	予算科目	会計 013002	(内線)	2411
	目的	対 市内の森林	意 木材資源を活用する。	大 事業名	林業振興事業	中 事業名	バイオマス関連整備事業

1 現状把握【DO】

(1) 事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返 (23年度～)
<input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (23年度～27年度)
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
市内公共施設にチップボイラーを整備し、現状利用する化石燃料(灯油等)を木質バイオマス由来燃料(チップ)に転換する。 これにより施設運営経費の節減を図るとともに、チップの原料として市内森林の林地残材を利用することにより、新たな林業需要の創出、森林整備や適正管理の推進を図る。

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	27年度実績(27年度に行った主な活動) ・南加茂木材流通拠点施設・作業場(2,530㎡)の整備		28年度計画(28年度に計画する主な活動) ・計画なし			
	② 活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)	
ア	市民参加型収集運搬登録者	人	175	267	303	350	
イ	市民参加型収集材積	t	745	1,215	1,224	1,500	
ウ	木質チップボイラー数	箇所	1	3	4	4	
エ							

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)	
	雲南市内の森林	ア	雲南市森林面積	ha	43,803	43,541	43,541	43,541
		イ						
		ウ						
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)		
木材生産量が増加	ア	木材生産量	m ³	19,827	31,693	23,876	30,000	
	イ							
	ウ							

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (27年度決算)	② コストの推移	単位	25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(計画)
■ バイオマス関連整備施設舗装工事 事業費: 13,000千円	財源内訳	国庫支出金	千円		51,530	
		県支出金	千円	1,783	41,225	2,780
		地方債	千円	76,000	229,500	9,700
		その他	千円			
		一般財源	千円	9,746	20,496	520
	事業費計(A)	千円	87,529	342,751	13,000	
人件費	正規職員従事人数	人	3	3	3	
	延べ業務時間	時間	713	1,125	375	
	人件費計(B)	千円	2,776	4,374	1,468	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	90,305	347,125	14,468	

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
島根県内において再生可能エネルギーの固定価格買取制度を活用したバイオマス発電所が松江と江津で稼働を開始。島根県内においては、県内全域を集荷エリアとするための体制整備のため、木質バイオマスの乾燥、集荷のための中間土場等の支援を実施(H27～H29)。	木質チップボイラーの導入に合わせ、より効率の良い熱利用が図られるよう検討を行っている。また、木材利用が円滑に進むようヤード整備を実施している。	未利用間伐材の利活用を通じて森林の整備がより適正に行われるようにするとともに、木材利用量が増加して林業振興を通じた地域経済の活性化を図ることが求められている。

事務事業名	バイオマス関連整備事業	所属部	産業振興部	所属課	農林振興課
-------	-------------	-----	-------	-----	-------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒		
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？ 税金を投入して達成する目的か？			
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？ 意図を限定・拡充する必要はないか？			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒		
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？			
C 効率性	<input type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	計画的に導入施設により良いチップボイラーを整備している。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない			
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由	再生可能エネルギーによる循環型社会の構築のため継続は不可欠である。
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有			
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		理由	
	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒ (具体的な手段や類似事業名)	<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない		類似事業はない。
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない			
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		施設規模に応じた事業費を計上しており、これ以上の削減余地はない。
C 効率性	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		理由	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		適切で計画的な事務事業実施に努めているため削減は出来ない。
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である		市内全域の森林を対象として実施しており公平である
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)	
	A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		チップボイラー導入の経験を生かし、新たなチップボイラーがより効率良く運転ができるよう検討を行い整備を進めるとともに木材利用を推進することができた。
B 有効性		<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		
C 効率性		<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		
D 公平性		<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		② 改革・改善による期待成果																			
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)		<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト				削減	維持	増加	成果	向上			維持	●	×	低下	×	×
	コスト																				
	削減	維持	増加																		
成果	向上																				
	維持	●	×																		
	低下	×	×																		
施設整備を計画的に行い、チップ需要を拡大させていくとともに、チップボイラーが最善の状態でも稼働できるよう運転状況の検証や適切な管理を行っていく。 また、チップの安定供給を図るため、土場の整備と利用方法の検討を行っていく。		廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。																			